

第2回(2014年)アジアコスモポリタン賞
受賞者・授賞理由



東アジア・アセアン経済研究センター

2014年10月

2015年3月改

第2回アジアコスモポリタン賞大賞受賞 / マンモハン・シン



[授賞理由]

アジアコスモポリタン賞の本年の大賞受賞者はこの賞の性格を示している。分野や専攻に関わらずアジアの「コスモポリタン」であることを真に象徴する人物を選考したく、満場一致でH.E. マンモハン・シン博士を選んだ。

シン博士は既にインド準備銀行総裁(1982-1985)や大蔵大臣(1991-1996)を含むインドにおける多くの影響力のある地位に着いてきた。

彼は平和で安定的なアジア社会の発展、地域内の発展格差の縮小、文化的・経済的統合に向けての持続可能な社会的成長の確立に重要で有意義な貢献によってアジアコスモポリタン賞の本質を体現している。インドにおいては、特にインドの規制され管理された経済から自由市場経済、自由貿易、政府の規制緩和の原則に基づく経済への転換の開始は博士に帰すべきものである。その結果、規制や非効率性が減少し課税ベースや雇用創出、外資が増加した。インドは過去に教育、インフラストラクチャー、雇用等一般のサービスに関し国の資源の一部を再分配する目的で経済を規制し管理してきた。これにより経済のいくつかの分野が保護され非競争的となった。1991年にインドの大蔵大臣としてのシン博士の指導のもとで、インドは広範囲の民営化、官僚主義の減少、企業家精神の促進を導く政府/経済の全面的構造改革である一連の重要な変革を行った。

そうしてインドは初めて持続的経済成長とグローバル経済への真の完成への道を踏み出した。

彼はインドの成功した経済的転換の背後に控える大きな力そのものである。博士は首相の2004年から2009年までの任期中に継続して同様の経済改革の成功を収め、政府の財政赤字の減少、貧農の債務救済、産業促進のための経済及び課税政策に焦点を絞った。

シン博士は世界で最も輝く指導者の一人であり、政治家には極めて稀な特性である静かな気取らぬ人格は高い尊敬を集めている。彼はインドの指導者として地球上のモデルとも言うべき、最大の多民族、多言語、多宗教の高度民主主義国家を律してきた。我々は世界に適合するアジアを具現化した博士の人格を大いに賞賛するものである。

インドは十三億人を有する地球上2番目の大人口国であり、全人口の20%を占めているため当然ながら非常に重要な地位を保持している。従って私どもは第2回アジアコスモポリタン賞大賞を博士に授与することを誇りとし幸いとするものである。

第2回アジアコスモポリタン賞 経済・社会科学賞受賞

ピーター・デーヴィッド・ドライスデール



[授賞理由]

今回のアジアコスモポリタン賞、経済・社会科学賞はピーター・デーヴィッド・ドライスデール (Peter D. Drysdale) 氏が受賞する事となった。アジア地域における献身、人々の経済への理解ならびに識見を深める手助け、社会科学とヒューマニティー発達への貢献を讃えての受賞となる。例えば、日本経済研究のパイオニアとしての彼の役割、豪日研究センター (AJRC) 設立者兼所長としての彼の仕事は、日本政府に認められ、2001年には旭日中綬章を受賞している。

彼の主たる関心分野は、国際貿易・経済政策と外交、東アジア経済、オーストラリアとアジア太平洋との経済関係および直接投資である。その専門分野は、日本経済と経済政策、中国の貿易・変容にまで及ぶ。研究の焦点は、アジア太平洋における経済統合の発展、ならびに東アジア、ヨーロッパ、インド、APECの相互関係が含まれる。

ドライスデール氏は、アジア太平洋経済、国際経済関係、外国投資、日本経済、経済政策に関する数多くの著書、論文を発表している。

- The G-20 Summit at Five: Time for Strategic Leadership (5年目を迎えた G-20 サミット:

戦略的なリーダーシップを発揮する時, (Kemal Dervis 共編, 2014年)

- Asia-Pacific Economic Cooperation (アジア太平洋経済協力, 寺田貴 共編, 2007年)

- East Asian Trade and Financial Integration: New Issues

(東アジアの貿易と金融統合: 新たな問題, 石垣健一氏 共編, 2002年)

- Reform and Recovery in East Asia (東アジアの改革と蘇生, 2000年)

- Asia Pacific Regionalism: Readings in International Economic Relations

(アジア太平洋地域のリージョナリズム: 国際経済関係の見解, 1994年)

- International Economics Pluralism: Economic Policy in East Asia and the Pacific

(国際的多元性の経済学: 東アジアおよび太平洋地域の経済政策, 1988年)

これらの著書、論文は、アジア太平洋経済協力 (APEC) 創設を知的基盤の構築を通じて手助けした。彼の研究は、オーストラリア、東アジア、太平洋地域の政策に多大な影響を与えてきた。加えて彼の謙虚さ、認容さ、寛大さ、魅力といった人間性においても、アジアコスモポリタン授与にふさわしいといえる。

第2回アジアコスモポリタン賞 経済・社会科学賞受賞 / ワン・グンウ



[授賞理由]

今回のアジアコスモポリタン賞、経済・社会科学賞はワン・グンウ氏に決定した。アジアに焦点を当てた学術研究および教育活動と異文化交流の重要性を認知した功績を称える。彼は今日のアジアにおいて、最も著名な学者・歴史家であり華僑を含む中国移民研究と中国および東南アジアの文明化研究の第一人者である。

ワン氏は学者としてだけでなく、彼は多くの学生を奮起させる教育者としてもその足跡を残している。最初にマラヤ大学で教鞭をとったのち、オーストラリア国立大学を経て、香港大学学長を1986年から1995年まで務めた。1996年から97年までシンガポール国立大学東アジア政治経済研究所所長、1997年から2007年まで同東アジア研究所の理事を務めた。これらの活動を通じて、彼は外交関係の向上や学際交流や異文化交流を促進させる重要な役割を担い、アジアとアジア社会のより深い理解を惹起した。更に彼は Australia-China Council の議長を1984年から1986年まで務めた。

彼の華僑、中国移民に関する研究は絶賛されている中で、アジア歴史研究におけるその業績は傑出している。彼が尽力したアジア研究を軸にした国際的学術交流への取り組みは大変意義深いものである。これらの功績は将来の幾世代にわたって道標とインスピレーションとなるものである。

彼の輝かしい学術キャリアにおいて、彼は世界各国の大学・組織で重要なポストを歴任してきた。世界でも指折りの歴史家であり、世界に東アジア理解を進める大きな原動力となった。

第2回アジアコスモポリタン賞 文化賞受賞 / リティ・パン



[授賞理由]

アジアコスモポリタン賞に期待される文化賞は、文学、音楽、絵画など多様なジャンルの中で人々の日々の経済活動に関連し、東アジア共同体という遥かな理想の形成へつながる文化的貢献という観点に着目して選考された。第2回アジアコスモポリタン賞文化賞の個人部門はアジアを代表する映画監督であるカンボジアのリティ・パン氏に授与される。

氏の代表作である「消えた画 クメール・ルージュの真実」は、人間の尊厳を根底に置き、その存在理由を否定したクメール・ルージュによる虐殺という悲劇に対してドキュメンタリー映画の手法により、大量虐殺の事実、イデオロギー的偏向と熱狂、それを許した国際情勢、さらにはクメール・ルージュそのものの崩壊のプロセスとその巨大な影響を真っ向から捕らえている。それは、アジアにおける組織的、長期的大量虐殺の事実を告発し、それを乗り越えて、カンボジアの未来を、更にはアジアの未来を築き上げようとする貴重な人々の営みを最も貧しい人々の視点を忘れることなく、多様な人々の個性を浮き立たせるということにより、全体像を鮮明に浮かび上がらせた。その作品の気高さや手法の斬新さ、さらに作品の背後に存在する含意は、絶望の中にも存在するアジアの英知というべきものに光を当て、世界の映画界に大きな衝撃を与えた。

2015年のASEAN共同体の形成を目前にして、様々な努力が懸命になされているが、より困難な問題を克服し、それを確立させるためには、各国の努力を高い立場から支え、推進する、ASEAN アイデンティティの確立がますます重要なものとなってきている。それは、ASEANとは何か、東アジア共同体とは何か、アジアとは何か、経済的発展は何のためにあるのかという根本的問いに対する答えにいたるプロセスにおいて、避けては通れないものである。

氏は、すでに欧米において高い評価を映画監督として確立しているが、ASEANが共同体形成に向けて重要なタイミングを迎えているこの時期において、氏の業績は、各国のこれからの努力に対して原点に立ち戻り鼓舞するものであり、東アジア共同体の形成に向けての顕著な文化的功績を果たした個人に与えられるアジアコスモポリタン賞文化賞の受賞にふさわしい。

第2回アジアコスモポリタン賞 文化賞受賞 / 宝塚歌劇団



【授賞理由】

2015年までに構築することが目指されているASEAN共同体は、政治、経済、文化という三つの柱から成る。この文化共同体の目標は、民衆思考で共通のアイデンティティと持続的な連帯感を持ち、「思いやりと分かち合いのある社会」を構築することだとされている。多様なASEANが単一の構想、単一のアイデンティティ、単一の共同体を目指すうえで、この文化共同体の実現は、ASEAN経済共同体およびASEAN共同体構築全体に関わってくる大切な柱であり、その成功が重要となってくる。文化共同体の最優先課題は、ASEAN共同体構築のためにASEAN域内の教育の役割を強化することである。そして、社会の活力を引き出す上でかかせない女性の社会進出という観点から、ASEAN経済共同体構築にかかせない喫緊の課題である。ここにまさに、宝塚歌劇団がアジアコスモポリタン賞を受賞した理由がある。

女性だけの歌劇団として、男役も女性が演じきることで、女性の持つその可能性を深く追求し、多くの女性に夢と感動、インスピレーションを与えてきた業績は高い評価に値する。女性の社会進出が注目を浴びつつある中、これまで100年に渡り継続的に公演を開催してきた当劇団は、以後日本における女性の社会進出のひとつの規範として脈脈と語り継がれることになる。

宝塚歌劇団の育成制度の特色として劇員全員はその養成機関である「宝塚音楽学校」を卒業することが求められる。そこで「清く正しく美しく」のモットーの下、各人が女性として、社会人として、その教養を高めていく理念は、普遍的に教育の重要性を反映しているともいえる。女性の社会進出という言葉が程遠かった閉鎖的社会的時代の発足し、100年にわたりその教育制度を支え、そして女性だけの歌劇団の持つその独創的なアイデンティティを保持し続けている宝塚歌劇団の活躍とその崇高さは、女性の積極的活用を具現化するひとつの形として今後も注目されるであろう。

上演作品に目を転じると1914年の初演以来、自主制作の作品だけでなく、西洋文学から漫画を含む和物まで幅広い公演レパートリーで劇団としての文化的多様性を保持してきた。シェークスピアの「ロミオのジュリエット」から洋画「風と共に去りぬ」、大ヒット作となった「ベルサイユのばら」から韓国テレビドラマ「太王四神記」まで、さまざまなジャンルの作品がファンの心を捉えている。年間の公演数は約1,300回、観客動員数は約250万人にのぼる。

そしてその長い歴史の中で、早くも1938年のヨーロッパ公演を実施したのを皮切りに、これまで世界各地で25回以上の海外公演を行っている。近年のアジアでは1999年の中国公演をはじめ、2005年には韓国公演を成功させた。この積み重ねを通じて、女性の魅力を世界にアピールしてきたが、今後アジアを含む海外展開をより積極的に展望している中で、この劇団の価値観が広く共有され東アジアの持続可能で接合的な社会を構築する一助となることを期待する。